

社民フォーラムの組織強化拡大、解散・総選挙闘争に勝利する！

＝ 福島県社会民主主義フォーラム第4回定期総会成功裏に終わる＝

3月23日福島県社会民主主義フォーラム第4回定期総会が開催されました。

八重樫副代表の司会で総会冒頭に、昨年の総会以降亡くなられた会員（三人）と能登半島地震で亡くなられた方々へ黙祷を行いました。

総会議長に小川右善代議員（会津若松）が選出され進められました。

紺野代表は、役員会を代表して「昨年は、統一自治体選挙の闘いご苦労様でした。失われた30年を取り戻す。社民フォーラムが設立した意義を深め社会民主主義の社会の実現のために頑張ろう」とあいさつしました。

来賓は、社民フォーラム中川事務局長（我々の手で新しい政治をつくる）、福島連合澤田会長（賃上げの流れを県内中小全労働者に広める）県平和フォーラム角田共同代表（護憲・原水禁・平和の闘い共にして行く）立憲民主党福島県総支部金子代表（原発ゼロ、食料自給率の上昇、働く仲間と共に闘う）より激励と連帯のご挨拶を受けました。社会民主主義フォーラム東北からは、メッセージを頂きました。

議事に入り、2023年度活動経過と総括（渡辺）、財政決算報告（斎藤）、議員団活動報告（松崎）監査報告（後藤）が満場一致で承認され、規定（案）改正、2024年度活動方針、財政方針が提起され、各地区からの活動報告と議案に対する質問や補強意見が討論されました。

発言は、5地区11名からありました。その主なものを紹介します。

福島（I）：県会選挙での立憲民主党の二人当選のための方針は、社会民主主義フォーラムとして立憲民主党にどう働きかけたのか。県連・支部からの情報が何もない。地域運動、地方支部など立憲の力をどうつけていくのか。立憲の中に大衆運動を持ちこんで頂きたい。

郡山（S）：結成1年目衆院選、2年目参院選、3年目統一自治体選挙を闘った。立憲支持労組と後援会で立憲民主党郡山市民集会を開催した。

立憲の暫定支部をつくりたい。

会津若松（S）：県議選半沢ゆうすけで大変お世話になりました皆様に感謝申し上げます。

須賀川（F）：2カ月に1回労組との交流会・学習会（須賀川市職労、岩瀬病院、鏡石町職、労金、福交）が選挙行動につながった。岩瀬病院の収支改善は困難、病院労働者と地域医療を守れるのか、守るための運動をどう構築して行くのか。

福島（E）：P8の◎を削除してはどうか

会津若松（H）：市議会選挙で新たな労組が加わった（JP 労組）、県会では現職が2,000～3000減票する中で宮下候補は60票の減票に止めて当選した。社民フォーラムが加わったから当選したと選対から評価された。若い人の組織化が必要だ。

南会津（M）：会員は、63歳から81歳で毎月必ず集まりをしている。現状を維持して行くのが精一杯である。総会は、泊りがけで行い交流を深めている。立憲民主党との関わりを持つために小熊衆議院議員を呼んで学習会をしている。県会選挙は要請が来なかったが陰ながら支援した。今後どう関わりを持つのか。物資販売については下部討議をして行く。

会津若松（U）：市議会選挙は、社民フォーラムの3人と立憲の2人の5人を当選させることを考えながら行なって来た。地区選対をつくり労組に何度も足を運び労組との関係も良くなっている。JP 労組組合員の会員拡大をして行く。社会民主主義フォーラムの名称を変えろ。



